

問二 (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 2

問二 古文

本文の現代語訳は、おおよそ次のとおりです。

〈今となっては昔のことであるが、小野篁という人が愛宕寺を建て、その寺で使うために鑄師に鐘を鑄させたところ、鑄師が言うには、「この鐘を、つく人がいなくても、二時間ごとに鳴るようにつくりました。その鐘を土を掘って埋め、三年間そのままにしておく必要があります。今日から数え始めてちょうど三年たった日の翌日、掘り出さなくてはなりません。その鐘を、日数が足りずに、または、日数を超えて掘り出してしまったら、つく人なしに二時間ごとに鳴るようには絶対なりません。そのような仕掛けをしています。」と言って、鑄師は帰っていった。

それで、その後、土を掘って埋めたが、この寺の別当である法師が、二年を過ぎ、三年目がきて、まだ（鑄師が言った）その日にもなっていないのに、待つことができなくて、気になったままに、あさはかにも、掘り出してしまった。そのため、つく人なしに二時間ごとに鳴ることはなく、ただの鐘になってしまった。「鑄師が言ったように、決められた日に掘り出したならば、つく人なしに二時間ごとに鳴ったであろうに。そのように鳴ったならば、鐘の音の聞こえる所では時間も確実にわかり、すばらしかっただろうに。非常につまらない事をした別当だ。」と、その当時の人は言っ
て非難したということだ。〉

問二 (ア) 3 (イ) 1 (ウ) 4 (エ) 2

問二 古文

本文の現代語訳は、おおよそ次のとおりです。

〈今となっては昔のことであるが、山科へ向かう道の途中に、四の宮河原という所があり、袖くらべという商人の集まる所があった。その近くに身分の低い男がいて、地藏菩薩を一体お造り申し上げたのを、（地藏菩薩を）開眼もせず
に櫃の中に入れて奥の部屋と思われる所にしまっておき、日々の忙しい暮らしに紛れて月日がたったが、（男が地藏菩薩のことを）忘れてしまっているうちに、三、四年ほどが過ぎてしまった。

ある晩、男が夢を見て、大通りを通り過ぎる者が大声で人を呼ぶ声をしたので、男が、「どうしましたか。」と聞いたところ、（大通りを通り過ぎる者が）「お地藏さん。」と大声でこの（男の）家の前で言うと、（家の）奥の方から、「どうしましたか。」と答える地藏菩薩の声がした。（大通りを通り過ぎる者が）「明日、天帝釈の地藏会がごさいますのでいらっしゃいませんか。」と言ったので、家の奥から地藏菩薩が、「行きたいと思うのだが、まだ目があかないので、行けそうにない。」と言ったので、（大通りを通り過ぎる者が）「必ずいらっしゃってください。」と言うと、「目が見えないのにどうして行くことができるだろうか。」と言う声がした。（男は）ふと目が覚めて、いったいどうしてこのような夢を見たのかと思うと不思議で、夜が明けて（家の）奥の方をよく見ると、この地藏菩薩をしまっておき申し上げていたことを思い出して、（地藏菩薩を）見つけ出した。男は、「これ（＝地藏菩薩）が夢にお見えになったのだ。」と驚き、急いで開眼し申し上げたということである。〉